

令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、教員は肯定的回答率79%と6ポイント減少したが、生徒は79%と現状維持であった。一方、「相互授業見学や校内研修が役立つ」は96%、「一人一台端末の活用」は96%、「授業方法について検討する機会を持っている」は89%と高い値であった。1人1台端末の活用の工夫や観点別学習状況の評価の研究等を推進しつつ、どのように授業実践につなげていくかが課題である。

・特に「到達度の低い生徒に対する学習指導」に関する質問に対し、教員の肯定的回答率が64%と6ポイント減少した。日々の業務に追われている実態があるが、対象生徒の指導を仕組化する必要がある。

【学校生活等】

・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は91%と、昨年から微増であった。生徒の意見を取り入れつつ、現状の教員体制で取り組める内容を精選し、準備の簡素化を図る。

・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は81%と高めで維持しているが、生徒は74%であった。1年生の入部率は76%と上昇している。教員定数の減少や働き方改革の推進により環境は厳しいが、今後も部活動活性化に向けて工夫進めたい。

【生徒指導等】

・「生活規律や学習規律などの指導は理解できる」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は87%、生徒は75%であった。本校の生徒指導の方針は一定の理解を得られていると思われるが、現状と時代の流れを検証しながら見直しを継続する。

【学校運営等】

・「日々の教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談しあえる職場の人間関係」という質問に対する教職員の肯定的回答率は83%、「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた教育活動」という質問に対する教職員の肯定的回答率は79%と高い値を維持している。同僚性や協働性に関する強みを生かして、学習指導の工夫や特別活動の活性化につなげていきたい。

・「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」という質問に対する教職員の肯定的回答率は83%と8ポイント上昇した。一定の信頼関係が築かれていると思うので、先生方の意見に耳を傾け、協力を仰ぎながら、令和6年度の学校経営計画に反映させ、学校経営を推進したい。

【全体を通して】

・各学年6クラス規模と、往時と比較して半減し、それに伴い教員数も半減している。また、「働き方改革」も喫緊の課題である。一方で、来年で新学習指導要領3年目を迎え、「観点別評価」にも取り組む必要がある。また、生徒会活動や部活動などの特別活動についても見直しが行われている。どれも蔑ろにすることはできない。特効薬などないのはわかっているが、効率よく取り組む具体例等の調査や協議、そして実践に取り組みたい。